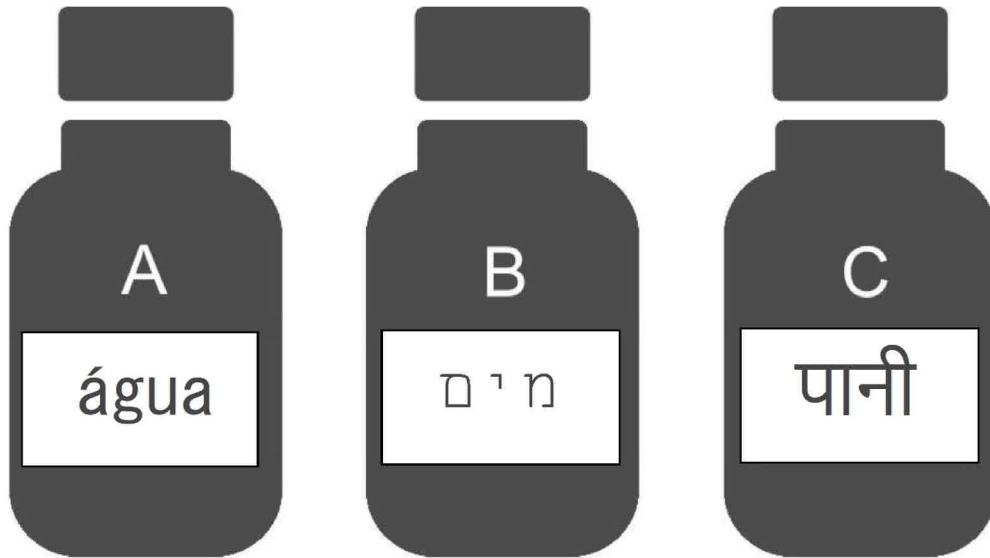


資料① (文字が読めない時の場面例)

★ 旅行先で、のどがかわいたので飲み物を飲みたくなりました。外国語で書かれた3本のびんを見て、みなさんはどんな気持ちになりますか？



資料②

しきじ
識字への思い



おばあちゃんと孫の会話から、気付いたことはないかな？
もう少し知りたい部分はないかな？

① おばあちゃん、うれしそうだね。
何かあったの？

② じつはね。
びょういんのうけつけで、
はじめてじぶんのなまえをかいたのよ。

③ えっ、
はじめてなの？

④ そう。
ドキドキしたけど
ちゃんとなまえをよんでくれた。
だから、うれしくてね。

⑤ おばあちゃん、
字を書く練習を
がんばってたもんね。



⑥ ちいさいころに、
いえのしごとのぞうりづくりをして、
がっこうにいけなかったぶん、
60さいから、しきじがっきゅうにいっ
て、じのれんしゅうをがんばったのよ。

⑦ えっ、おばあちゃん、
小さいころに、
ぞうりづくりをしていたの？
すごいなあ……。
どんなぞうりか見てみたいな。
でも、家の仕事で、
学校に行けなかったなんて……。

⑧ ばあちゃんが作ったぞうりは、
がんじょうで、みんながよろこんでくれた。
がっこうにいけなかったのは、
いえのしごとだけが、りゆうじゃなくて、
がっこうにいっても、「なんでくるんだ。」といわれて、
いじめられて……くやしかった。

学習カード①

「字の読み書きができないと、どうなる？」

- ・ 電車やバスに乗る時に、行き先が分からない。
- ・ 病院や役所へ行っても、住所と名前を書くことができない。
- ・ 買い物に行っても、商品の成分が分からない。
- ・ 運転免許をとりたくても、問題の意味が分からない。
- ・ 選挙に行きたくても、候補者の名前を書けないから、投票をあきらめることになる。

学習カード②

「識字学級とは？」

- ・ 日本には、差別や貧困等により、学校に行きたくても行けなくて、文字を学べなかった人たちがいる。
- ・ だから、安定した仕事に就くこと等が、保障されてこなかった。
- ・ このような実態を受けて、差別によって奪われた文字を取りもどすために全国各地で文字を学ぶ運動が展開された。
- ・ この運動の成果で、昭和 38（1963）年、初めて福岡県に識字学級が開設された。
- ・ やがて、全国に識字学級は広がっていった。
- ・ その後、50 年以上が経ち、識字学級生の高齢化や、日本の国際化が進む中で、識字学級は外国から日本に来た人たち等が学ぶ多文化共生の場となっているところもある。

【授業者向け 資料についての補足説明】

資料①…A：アグア（ポルトガル語）、B：マイム（ヘブライ語）、C：パーニー（ヒンディー語）
ABCすべて「水」を意味します。

資料②…おばあちゃんと孫の会話は①～⑧と順番に読み進めてください。おばあちゃんは、文字を学び始めたばかりなので、ひらがな文字が多くなっています。授業する際に、この吹き出しの違いに気付かせていくことも授業のポイントとなります。

資料③…別紙の授業者用手持ち資料「識字学級の歩み」を学習カード①、②と読みやすくしたものです。

識字って、どんな意味があるの？

新聞、雑誌、広告、看板、標識、値札など、私たちの身の回りには文字があふれています。そして、私たちは、その文字を読むことを通して、様々な情報や知識を得ています。また、文字を使って、自分の気持ちや考えなどの伝えたいことを発信しています。

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）では、「日常生活で用いられる簡単で短い文章を理解して、読み書きできること」を「識字」としています。

「電車やバスに乗る時に行き先が分からない。」「病院や役所へ行っても住所と名前を書くことができない。」「買い物に行っても商品の成分が分からない。」「運転免許をとりたくても、問題の意味が分からない。」「選挙に行きたくても字を書くことができないため、投票をあきらめる。」など、文字の読み書きができないことは、人間として必要な最低限の文化的な生活を奪われることとなります。

なぜ、識字学級ができたの？

日本では、差別や貧困によって、小さいときから子守をしたり家業を手伝ったりするなど、学校に行きたくても学ぶ機会を奪われて文字を学べなかった人たちがいます。社会生活を営む上で大切な、教育を受ける権利や安定した仕事に就くことなどが保障されてこなかったのです。このような実態から、差別によって奪われた文字を取りもどすために文字を学ぶ運動が各地で展開されて、昭和38（1963）年、福岡県で日本の識字学級の始まりが開設され、やがて全国に広まっていきました。

識字学級は今どうなっているの？

識字学級生の高齢化や、日本の国際化が進む中で、識字学級は様々な人たちの学びの場へと変わってきています。戦争や差別、貧困などの理由で教育を受ける機会を奪われた人たちだけでなく、外国から日本に来た人たちなどが、識字学級（識字教室）で文字や言葉を学び、様々な力を獲得しながら、周囲の人々や社会とのつながりを深め、多文化共生の場になっているところもあります。

識字は、単に文字や言葉を習得するだけの取組ではなく、人として豊かに生きていく力を取りもどすことにもつながるのです。識字学級で学び、自分の人生を豊かに広げようとするその前向きな姿勢やたくましさから、私たちは多くのことを学ぶことができます。